

やさしいものから読んでみよう



「おうちでどくしょ」(ステップアップ)



『この計画は秘密です』

ジョナ ウィンター//文

ジャネット ウィンター//絵

さくま ゆみこ//訳 すずき出版

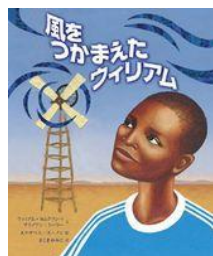
アメリカのとある町で、住民たちは立ち退きを命じられます。その後には優秀な科学者たちが集められました。何を研究しているのか、作っているのか、密かに計画が進められます。

その後を
知りたいと
思ったら



立場や視点が違うと感じること、考えることは変わりますよね。この本ではアメリカの高校生たちがある事の是非をディベートします。学校で習うことだけが本当なのか？疑問を持つこと、自分で調べ考えることの大切さを教えてくれます。

『ある晴れた夏の朝』 小手鞠 るい//著 偕成社



『風をつかまえたウィリアム』

ウィリアム カムクワンバ//文

ブライアン ミーラー//文

エリザベス ズーノン//絵

さくま ゆみこ//訳 さ・え・ら書房

(6年生の教科書で紹介されています)

アフリカの貧しい国で暮らすウィリアム。日照りが続いたことで、家にお金が無くなり学校をやめなくてはならなくなりました。それでも、勉強をしたウィリアムはNPOの小さな図書館に通います。科学の本に会い風が

しっかりと
読んでみたいと
思ったら

『風をつかまえた少年』

14歳だったぼくはたったひとりで

風力発電をつくった』

ウィリアム カムクワンバ//著

ブライアン ミーラー//著

田口 俊樹//訳 文藝春秋



電気を生み出すことを知り、電気があれば一晩中明かりをともし、ポンプで水をくみ出すこともできる。家族を助けることができるかもしれない！ウィリアムのチャレンジが始まります。映画にもなったホントのお話。



『ぼくの図書館カード』

ウィリアム ミラー//文

グレゴリー クリスティ//絵

斉藤 規//訳 新日本出版

1920年代のアメリカ南部、黒人は自由を制限され図書館の利用もできませんでした。お話を聞いて育った「ぼく」はどうしても本を読みたいと考え、協力してくれる白人を見つけて本を借りることに成功します。

もう少し
知りたいと
思ったら



『希望の図書館』

リサ クライン ランサム//作

松浦 直美//訳 ポプラ社

1946年、母の死をきっかけにアメリカの南部から北部に父と移住したラングストン。学校では田舎者といじめられます。そんな時、黒人は図書館に入れないと聞いていたのに誰でも自由に使える図書館を見つけます。初めての図書館で二週間も本を借りられることを知り……。